

圧倒的なスピード感で かつてない価値を目指す

今日の最高財務責任者 (CFO) は、ビジネス全体にインパクトを与えることができる最も近い立場にいます。CFOは3つの新たな役割を担うことで、今まさに組織が必要としているスピードを身につけ、成長を加速させ、リスクを管理することができます。

新たな役割を100%担い、効果的に実践できるCFOは、以下の成果を達成することができます

EBITDAの複合年間成長率 (CAGR) を、今後3年間で3.8%から約2倍の6.9%に改善

6.9% EBITDA CAGR

3.0% REVENUE CAGR

収益のCAGRを2.7%から3.0%に改善

財務の守り役

としてのCFO

予測的インサイトを効果的に活用し、経理・財務部門をリードする

60%

従来の経理・財務関連業務のうち自動化されている業務の割合 (2018年の時点で34%)

**データの
流暢性**

が経理・財務部門のコアスキルになりつつある

76%

コロナ禍において「組織のエッジセンサー」の役割を果たすことで、他の領域にも価値を提供できると回答したCFO

事業価値のアーキテクト

としてのCFO

他の経営幹部と協働し、必要に応じた戦略の転換を推進

72%

組織のテクノロジー戦略の方向性について最終的な決定権を持っていると回答したCFO

86%

他の経営幹部との協働の頻度と範囲を拡大していると回答したCFO

88%

組織全体に対する経理・財務部門の影響力を高めていくために新たな測定基準を活用していると回答したCFO

CFOはテクノロジーとデータを活用して、すべての経営幹部が目指す方向性の一致を図っている
またリアルタイムデータとモデルを用いて、エンドツーエンドのインサイトの獲得に努めている

デジタル戦略の媒介者

としてのCFO

新たな価値を創造し、デジタル戦略をリードする

戦略の転換を図る上で、**個人情報を含むデータ漏洩の問題を最大の障壁と認識**

ただし
28%

の経理・財務専門家しか、確実なデータセキュリティ対策によるリスク管理を実践できていない

68%

経理・財務部門は組織のESGパフォーマンスの最終的な責任を負っていることを認識しているCFO

CFOが次に起こすべきアクション:

財務の守り役として

- データサイロを完全に破壊する
- 財務データの処理にとどまらず、見通し予測の実行にも高度なテクノロジーを活用する
- 経理・財務の専門家が新たなスキルを開発し、より幅広い能力を身につけられるようサポートする

事業価値のアーキテクトとして

- より確かな目的意識をもって、同僚やすべての経営幹部と協働する
- より洞察力に富んだ高度な視点と知識を組織に提供し、ビジネスをリードする
- 自らの責務の一環として、テクノロジープラットフォームとデータプラットフォームの連携を実現する

デジタル戦略の媒介者として

- 経理・財務関連以外の領域においても、戦略的なイニシアチブに財務能力をフル活用する。
- 組織のESGパフォーマンスを向上させ、社会的価値を生み出すための責務を果たす
- 幅広いレジリエンスを身につけるための支援を求める

本調査について

CFOの役割と責務の変化に関する継続的な調査の一環として、世界中の企業で働く1,300人以上の財務部門上級管理者を対象に、2020年4~6月にかけて40回以上の定性的調査を実施しました。

10の業界に属するS&P 500企業245社の分析を実施。デジタルテクノロジーとゼロベースワークロードを活用したデータに基づく予測的意思決定によって、各社が差別化要因としてのスピード向上にいかんして取り組んでいるかを明らかにしました。